OISO MUNICIPAL MUSEUM

Report リポート

大磯町郷土資料館だより
2003·11·30
24

もくじ

◇開館15周年記念考古資料展 2
◇2003年ウミガメ情報 4
◇松本順の生人形（いきにんぎょう） 5
◇トピックス 6
◇資料の受入／行事案内 8

開館15周年記念　考古資料展

大磯町域には幅広い時代にわたり数多くの遺跡が存在します。古くは明治期から考古学調査が行なわれており、現在まで多くの地点での調査が行なわれています。永年にわたる調査により、多くの考古資料の蓄積がなされてきています。

今回の展示では、縄文時代から近代に至る考古資料と共に、発掘調査等の調査時の写真パネルによって展示を構成します。また、大磯という地に特徴的といえる近代の考古資料に関して、比較参考資料として他地域での発掘調査による考古資料の情報を併せて展示します。

展示の構成に従って各時代の概要について以下に述べます。

〔縄文時代〕

大磯町域の縄文時代の資料は、今から1万年以上前の縄文時代草創期に遡ると考えられる石器や、早期の土器などの存在が確認されていますが、多くの遺構や遺物が存在するのは後期の資料です。今回展示した大磯小学校遺跡からは、大量の土器とともに多くの動物遺体（骨など）が検出されています。土器や動物遺体は廃棄として廃棄されたと考えられ、往時の食生活の一端を垣間見させる資料であるといえます。

動物遺体ではタイ、マグロ、サメ等の魚骨の他、イルカ類の骨が多く出土しています。また陸棲の動物では、シカ、イノシシ等の骨が認められます。いずれも当時の人々の活発な狩猟・漁撈活動の一端を示す資料であると言えます。

〔弥生時代〕

弥生時代の資料は現在までのところ大磯町域にはあまり多くなく、後期といわれる時期の資料が中心でありますが、馬場台遺跡からは中期後半宮ノ台期の大型住居が極めて良好な遺存状況で検出されました。

馬場台遺跡の大型住居は、火災に遭って廃棄された遺構であると考えられ、多量の壺・甕等の土器の他、石器・骨角器・動物遺体等が出土しました。

多くの出土資料の中でも特に注視されるのは住居址内から炭化米が検出されたことです。1箇所に集中して存在した炭化米の数は約38,000粒におよび、神奈川県下では平塚市北金目遺跡群からの膨大な量の出土例に次ぐ量であり、極めて貴重な資料であります。

本例は、南関東の弥生時代を研究する上でも重要な遺跡であるといえます。

〔古墳時代〕

古墳時代後期において、大磯丘陵には横穴墓といわれる墓が多く造られます。横穴墓とは古墳の一種で、山肌に穴を穿って石室構造を構築します。単独ではなく群れをなして存在するのが特徴であります。横穴墓からは土器や金属製品などの副葬品が検出されることがあります。また装飾の一種と考えられる線刻画が描かれている例があります。

今回展示の坂田山南横穴墓群からは金銅製の耳環の他、杏葉等の馬具が出土しました。また、堂後下横穴墓群には線刻画が描かれている例が見出されました。また、遺物としては横瓶が出土している点が注視されます。

〔平安時代〕

平安時代末期には現在の大磯町域に相模国府が存在したと考えられていますが、実態は未だ不明確な部分が多くあります。今までに、貿易陶磁、緑釉陶器、印章、巡方（帯の飾り具）、墨書土器等をはじめとする特徴的な遺物が出土しています。貿易陶磁には12世紀末の時期と考えられる白磁の碗等が看取されます。

また、鉄製の鋤鍬先とともに一対の特徴的な台付の鉢形土器が出土した配石遺構が特筆され、祭祀等に関わる跡であろうかと考えられます。

〔近代〕

明治期以降の大磯は、海水浴場及び別荘地として大いなる賑わいをみせます。考古学的な資料としては、構造物に用いられた煉瓦や瓦などの構築材や、陶磁器などの生活用具があります。大磯町域でいままでに得られた考古資料の他、今回の展示では、近代の特徴的な遺跡のうち、東京都汐留遺跡と横須賀市猿島遺跡群の出土資料を比較参考資料として併せて展示します。

東京都汐留遺跡の地には明治5（1872）年、日本に初めて鉄道が敷設された際の新橋停車場が存在しました。近代の象徴とも言える鉄道に関わる遺物が多く出土しています〈註1〉。

東京湾に浮かぶ猿島は、明治期以降、軍事要塞施設として利用され、多くの遺構が遺されています。殊に煉瓦構造物等に特徴を見出すことが出来ます〈註2〉。

（当館学芸員　國見　徹）

註1．小林博範　他　2003『汐留遺跡』Ⅲ
　　東京都埋蔵文化財センター

註2．野内秀明　他　2002『猿島遺跡群』
　　横須賀市教育委員会

展示資料目録

	資料名	時期	遺跡名	備考
縄文時代	縄文土器（破片資料）	縄文時代後期	大磯小学校遺跡	一括資料
	網代痕の有る深鉢底部	縄文時代後期	大磯小学校遺跡	
	鉢	縄文時代後期	大磯小学校遺跡	
	イノシシの下顎骨	縄文時代後期	大磯小学校遺跡	
	ニホンジカの左下顎骨	縄文時代後期	大磯小学校遺跡	
	イルカ類の脊髄骨	縄文時代後期	大磯小学校遺跡	
弥生時代	壺	弥生時代中期	馬場台遺跡	
	壺	弥生時代中期	馬場台遺跡	
	壺	弥生時代中期	馬場台遺跡	
	壺	弥生時代中期	馬場台遺跡	刻画資料
	壺	弥生時代中期	馬場台遺跡	
	壺	弥生時代中期	馬場台遺跡	
	甕	弥生時代中期	馬場台遺跡	
	甕	弥生時代中期	馬場台遺跡	
	甕	弥生時代中期	馬場台遺跡	以上９点一括資料
	炭化米	弥生時代中期	馬場台遺跡	
	「炭化米とおにぎり状炭化米」	弥生時代後期	平塚市大久保遺跡、北金目塚越遺跡	比較参考資料（写真）
	魚骨	弥生時代中期	馬場台遺跡	
	壺	弥生時代中期	馬場台遺跡	※附　実測図
古墳時代	耳環（じかん）	古墳時代後期	坂田山南横穴墓群	１対
	杏葉（ぎょうよう）	古墳時代後期	坂田山南横穴墓群	
	杏葉（ぎょうよう）	古墳時代後期	坂田山南横穴墓群	
	横穴墓線刻画の剥取転写	古墳時代後期	堂後下横穴墓群	
	横瓶	古墳時代後期	堂後下横穴墓群	
平安時代	鉄製鋤鍬先	平安時代	馬場台遺跡	
	台付鉢形土器	平安時代	馬場台遺跡	
	台付鉢形土器	平安時代	馬場台遺跡	
	羽釜（破片資料）	平安時代	馬場台遺跡	以上４点一括資料
	緑釉陶器	平安時代	馬場台遺跡	
	白磁椀（破片資料）	平安時代	馬場台遺跡	
	墨書土器	平安時代	馬場台遺跡	
	坏	平安時代	馬場台遺跡	
近代	赤煉瓦	近代	東小磯　王城ヶ谷	一括資料
	赤煉瓦	近代	神明前遺跡	刻印；桜（単弁）
	耐火煉瓦	近代	神明前遺跡	刻印；「NIHONTAIKAKOGYO」
	汽車土瓶	近代	神明前遺跡	「大船」銘
	磁器類	近代	神明前遺跡	洋皿・ティーカップ
参考資料	汽車土瓶	近代	東京都　汐留遺跡	「大船」銘
	汽車土瓶	近代	東京都　汐留遺跡	「国府津」銘
	汽車土瓶	近代	東京都　汐留遺跡	「沼津」銘
	汽車土瓶　蓋	近代	東京都　汐留遺跡	
	汽車土瓶　蓋	近代	東京都　汐留遺跡	
	汽車土瓶　湯呑	近代	東京都　汐留遺跡	
	汽車土瓶　湯呑	近代	東京都　汐留遺跡	
	赤煉瓦	近代	東京都　汐留遺跡	刻印；「鉄道」
	赤煉瓦	近代	東京都　汐留遺跡	刻印；「鉄道」
	赤煉瓦	近代	東京都　汐留遺跡	刻印；「鉄道」
	耐火煉瓦	近代	横須賀市　猿島遺跡群	刻印；「AJIYA」
	耐火煉瓦	近代	横須賀市　猿島遺跡群	刻印；「テイコク」
	耐火煉瓦	近代	横須賀市　猿島遺跡群	刻印；「SHINAGAWA」
	耐火煉瓦	近代	横須賀市　猿島遺跡群	刻印；「BONNYBRIDGE」
	赤煉瓦	近代	横須賀市　猿島遺跡群	刻印：桜（単弁）
	赤煉瓦	近代	横須賀市　猿島遺跡群	刻印；桜（複弁）
	赤煉瓦	近代	横須賀市　猿島遺跡群	「東洋組西尾士族就産所」
	赤煉瓦	近代	横須賀市　猿島遺跡群	○にカタカナ１文字

※この目録は原則として写真資料等は含みません
※展示資料は期間中展示替により変更する場合があります

2003年 ウミガメ情報

話題を呼んだ昨年8月のウミガメの産卵（大磯町西小磯）から1年、今夏もウミガメの情報が集まりました。残念ながら2年続けてのウミガメの産卵はありませんでしたが、ウミガメの死体漂着については4件（アカウミガメ3個体、アオウミガメ1個体）の情報が集まりました。

〈アカウミガメ3個体が漂着〉

①5月8日、伊藤貞夫氏（平塚市在住）より連絡をいただき、同日、記録撮影を行ないました。漂着場所は西小磯の海岸。直甲長は70cm、直甲幅は55cmでした。

②7月11日、江藤仁樹氏（大磯在住）より連絡をいただき、同日、記録撮影を行ないました。漂着場所は西小磯の海岸。直甲長は74cm、直甲幅は62cmでした。

③9月15日、伊藤貞夫氏確認。17日に連絡をいただき、同日、記録撮影を行ないました。漂着場所は国府本郷の海岸。直甲長は78cm、直甲幅は63cmでした。

3個体とも記録撮影後、関東周辺のウミガメ漂着場所及び死因について調査、研究を行なっているエバーラスティング・ネイチャー事務局へ連絡を取り、漂着したウミガメを解剖し、消化器官内の内容物を確認してから埋葬しました。

〈アオウミガメが漂着〉

6月19日、平塚市唐ヶ原の海岸でアオウミガメが漂着しました。発見者は飯田福信氏（大磯在住）。直甲長は45cm、直甲幅は35cmでした。アオウミガメは相模湾を産卵域とするアカウミガメとは異なり、目撃されるケースは稀で漂着が確認されることも大変珍しい種類です。アカウミガメと同様に内容物を確認後、埋蔵しましたが、貴重な資料であるため、将来的には骨格標本にと考えております。

〈近年の情報収集の事情〉

ここ数年、当館へ直接、ウミガメ漂着の連絡をいただくことが増えてきました。2001年頃までは、ウミガメ漂着発見の際、まず大磯町役場に通報があり、その後、当館に連絡をいただいていたのですが、直接、連絡をいただくことで、発見時の状況について詳細を伺うことができるようになりました。情報が集まるようになった一因として、当館で企画展「相模湾のウミガメ」、「漂着物展」を開催したことに加え、2000年から「海の教室」を実施していることで情報を収集していることが周知されたこと、また、これらの企画により海産生物に目を向ける契機となったとも考えられます。今後もウミガメに限らず、海の生き物についての情報をお待ちしています。

（当館学芸員　北水慶一）

5月8日漂着のアカウミガメ

9月15日漂着のアカウミガメ

7月11日漂着のアカウミガメ

6月19日漂着のアオウミガメ

松本順の生人形（いきにんぎょう）

松本順（良順）といえば、わが国初の西洋公立病院を開設、将軍慶喜の侍医や初代陸軍軍医総監を務めたことなどで知られています。さらに早くから海水浴の効用を説き、大磯に海水浴場を開設するなど、大磯にとって欠くことのできない存在です。

現在、当館の常設展示室には、松本の木像が展示されています。これは、直系のご子孫（松本家）から寄贈された像高1メートルあまりの肖像彫刻です。作者は人形師の初代安本亀八といわれ、特に塗料については二代亀八の絶賛を得ており、松本家において大切に保管するようにと助言を得ているとのことです。また、像の髯は松本順本人の髯をそのまま使ったと伝えられています。しかし、安本亀八がいかなる人物なのか、また、像制作にかかる経緯についての追跡調査もままならず、長い間気にかかっていました。ところが、この程、今までの胸のつかえをすべて取り払ってくれるような情報が飛び込んできました。それは、熊本市現代美術館の冨澤学芸員からの1通のFAXでした。

それによると、熊本市現代美術館では来年夏に開催予定の生人形師に関する展示準備のため、熊本出身の生人形師・松本喜三郎と安本亀八についての資料調査をしているとのことでした。生人形というのは江戸末期に誕生し、見世物興業で評判を呼んだ「生き写し」のごとく超リアルな人形のことです。両名に関する伝承によると、二人とも医学的な側面から松本順と深いつながりがあり、松本の肖像彫刻を制作したという記録がみえるそうです。ついては松本の肖像彫刻、もしくは松本喜三郎や安本亀八に関する情報がないかという照会でした。早速、嬉々として像の所在をお知らせするとともに、あわせて安本亀八に関する情報提供をお願いしましたところ、『生人形師　安本亀八』（冨森盛一著、昭和51年刊）の抜粋を送っていただきました。同書には、〔松本順の像〕として、次のように記されています。少々長いですが、全文を紹介しておきます。

明治中期の頃、亀八が、早稲田にあった松本順の宅へ泊り込みで行って作った木像で、像は大磯海岸に置かれた。大磯海岸は、明治十七年（鉄道開通以前）、日本で始めて海水浴場を開設されたところで、その功労者は松本順（後の陸軍軍医総監）である。そこで土地の人々は、この発明賞揚を称えて現地に松本順の彫像を立て、毎年大磯の海水浴場開きにこれを祭ることになった。この事情についての亀八の談話が明治三十年二月の『名家談叢』に出ているとして『明治東京逸聞集』（森

銑三著、東洋文庫　平凡社刊）に所収されている。左に

「早稲田の松本順先生の屋敷へ泊り込みで行って先生の木像を拵えた。これが似顔を作った始めで、その髯は先生の実際の髯を取って植えた。今の木像は大磯へ行っており、毎年大磯で海水浴を開く時にはこの像も祭る。大磯は先生によって開発されたので、土地では先生を徳として氏神みたいに先生の木像を祭るのだ。」

以上の記述によって、像制作の経緯を知ることができました。松本家に伝承されていた安本亀八の名や、本人の髯を使用していることなどを裏づける貴重な内容です。ただし、通常は明治十八年とされる海水浴場開設が明治十七年となっていたり、大磯が日本初の海水浴場であるという認識、海水浴場開設と軍医総監就任の時期が前後するなど記述内容には若干の問題はありますが、いずれにしても貴重な情報であることに違いありません。特に、像を海水浴場開きの際に「祭って」いたということは、実在の人物が半ば神格化されていたと解釈できます。もっとも、「土地では先生を徳として氏神みたいに先生の像を祭るのだ」という記述は、決して大げさな表現ではなかったと思われます。明治以後、宿場町としての役割を失い、疲弊していた大磯を、海水浴場によって「町興し」をした松本の功績は、大磯町民誰もが認めるところです。昭和4年には有志の呼びかけにより、総工費2,260円68銭、800人余りにのぼる寄附を集めて「松本先生謝恩碑」が建てられ、盛大な竣工式がおこなわれました。そういえば、町民と積極的に関わりを持った伊藤博文についても、大磯町西小磯の白岩神社祭礼では、必ず伊藤の揮毫した社号の掛軸を掛け、伊藤の塑像を祀っている例もあります。したがって、松本の像を手厚く祀っていた光景は十分考えられることです。そして、謝恩碑の建つ前は、松本の像を安置していたという記述は、その像が今回取り上げた生人形であったことを示しています。いずれにしても、今後の展開が楽しみな資料といえます。

（当館学芸員　佐川和裕）

【トピックス】

◇第２回漂着物展

前期展示「漂着物の物語り」

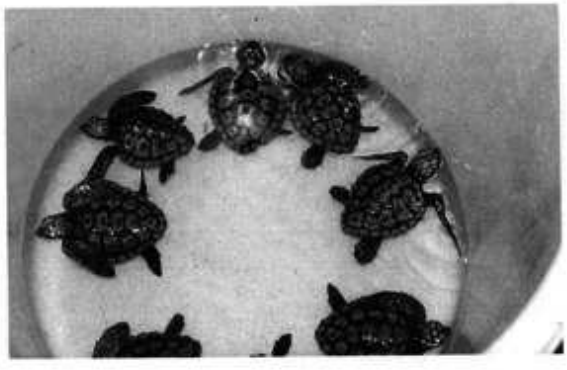
後期展示「私のお宝／ビーチコーミング・アート」公募展

当館の平成15年度の企画展として、第２回漂着物展を開催しました。展示は前期展示「漂着物の物語り」（平成15年６月７日～７月20日）と、後期展示「私のお宝／ビーチコーミング・アート公募展」（７月26日～９月７日）に分けておこないました。

漂着物展は、海岸に打ち寄せられた漂着物を通して、海、川、山、生き物、私たちのくらし、環境などを考える展示として、平成13年度にもおこないました。今回は２回目となります。

前期展示では、特徴ある漂着物にスポットをあて、９つの小テーマを設けて漂着物を取り巻くさまざまなストーリーを展開しました。また、後期展示では、自慢の漂着物や、漂着物を利用した作品を一般公募して展示をしました。幼稚園児から80歳代に至る世代より、さまざまなお宝や作品が寄せられ、出品者59名、出品点数は200点におよびました。たくさんの方々が、漂着物を楽しんでおられることが分かりました。

なお、会期中の入館者は5,547人（前期展示3,077人・後期展示2,470人）を数えました。



◇海の教室「大磯産アカウミガメの放流会」

平成12年度から継続している「海の教室」では、さまざまな視点から海を考えることを主旨として活動を進めています。本年度最初の海の教室は、「大磯産アカウミガメの放流会」と題して、６月12日（木）に開催しました。これは、昨年８月に大磯町西小磯の海岸で産卵、その後江ノ島水族館のご協力をいただいて保護、孵化したアカウミガメを、西小磯の海岸から海に戻そうという企画です。

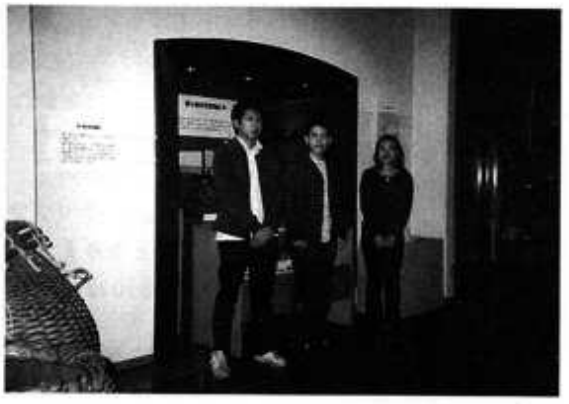
当日は、100名を超える一般参加者とともに、多くの報道陣もつめかけました。まず最初に、小磯幼稚園ホールにてアカウミガメの産卵と保護について当館の北水学芸員が経過報告をおこないました。続いて、江ノ島水族館の神応飼育技術課長から、アカウミガメの生態や飼育などの話をスライドを交えながらしていただきました。その後、幼稚園下の海岸に移動して、小磯幼稚園児の手によりアカウミガメを放流しました。当日は波が高く海の状況は良くありませんでしたが、アカウミガメの子どもたちは波を越えて泳ぎ出していきました。いつの日か、大磯の海岸に再び戻ってくることを期待しています。

◇「西小磯の七夕」の記録映像が完成

平成14年2月に「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」として国から選択を受けた西小磯地区に伝わる七夕行事の記録映像が完成しました。これは、平成15年度地域伝統芸術等保存事業として、財団法人地域創造ならびに財団法人全国市町村振興協会から助成を受けて作成したものです。

映像の内容は、西小磯東地区と西小磯西地区それぞれに継承されている七夕行事を撮影・編集し、全体で30分にまとめました。同じ七夕行事でも、東地区と西地区では行事の内容や進め方に若干の違いがみられることから、それぞれの地区の特徴をとらえ、東地区は記録性を重視し、西地区はエンターテイメント性に重点をおいて30分の映像が間延びしないように構成しています。

地域の伝統芸術等に対する理解や保存継承に向けて活用していただくために、町内の学校や施設に配布いたしました。なお、大磯町郷土資料館と大磯町立図書館ではVHSビデオテープの貸し出しをしていますのでご利用ください。



◇一部展示替え

このほど、常設展示室の小コーナーの展示替えを実施しました。これは、例年実施している博物館実習生（本年度は3大学3名）による実技実習の一環としておこなったものです。

当館では、後半の実習内容を、展示替え実習と位置付けており、企画から展示、リーフレット作成まで、すべて実習生自らの手で完成することを課題としています。今回のテーマは「照ヶ崎の生き物たち」で、大磯町の照ヶ崎海岸に見られる鳥と貝について取り上げたものとなりました。ささやかな展示コーナーですが、実習生たちの熱意をご覧ください。

◇書籍案内

・『慶覚院蔵木造仁王立像』（大磯町文化財調査報告書第46集）／平成15年3月刊

平成11年に大磯町指定有形文化財に指定され、同12年度に修復を行なった慶覚院蔵木造仁王立像の調査報告書です。仁王立像についての考察のほか、修理概要と写真、法量をはじめとした基本データ、かつてのたたずまいを偲ぶ古写真や絵はがきなどをまとめています。なお、本像は鎌倉仏師による中世の作例に学んだ近世初期のすぐれた作例として注目されています。A4版39頁。有償頒布（500円）。

・『大磯町郷土資料館収蔵資料目録　絵はがきⅡ』（資料館資料7）／平成15年2月刊

当館収蔵資料のうち絵はがきを目録化したもので、平成14年に刊行した『絵はがきⅠ』に続く第2集です。明治18年の海水浴場開設とともに保養地や別荘地として栄えてきた大磯では、案内書や絵はがきが数多く刊行されてきました。このような地域的特性を考慮して、当館では開館以来、絵はがきや古写真の収集に務めてきており、第1集では大磯（661点）および神奈川県内のほか、東京都を除く関東地方までを目録化しました。今回の第2集は、東京都、中部・東海地方、北陸地方、近畿地方、中国地方、四国地方までをまとめたものです。これにより、第1集（2,399点）と第2集（4,016点）をあわせて、6,415点の絵はがきが目録化されました。A4版96頁。有償配布（500円）

【資料の受入】

（寄贈）ご協力ありがとうございました。

高　麗	中村千代氏	雛人形　他
高　麗	藤田輝子氏	人形　他
大　磯	木村純子氏	蝶標本　他
大　磯	渡辺栄一郎氏	防火用石灰を入れる箱
大　磯	匿名	イタゴ　他
大　磯	中島源吾氏	足踏ミシン
大　磯	飯田福信氏	カメラ
大　磯	渡辺信之氏	カメラ
大　磯	細住年光氏	須恵器　他
大　磯	尾崎芳治氏	写真
大　磯	田口　元氏	野球ゲーム
大　磯	樺山紀次氏	雛人形
大　磯	南　博　氏	長火鉢　他
大　磯	加藤嘉義氏	記念入場券
大　磯	川村　忠氏	雛人形
東小磯	葛野秀夫氏	桶職人道具　他
東小磯	新見紀雄氏	レコードのスタンパー
東小磯	椎野スエ氏	五月人形　他
西小磯	天野美佐子氏	ヤドカリ
西小磯	波多野収三氏	蝶標本
西小磯	鈴木　昇氏	古地図　他
西小磯	鈴木菊え氏	蚊帳
西小磯	小林幸男氏	ハナサキガニ剥製　他
西小磯	渡辺ヤス子氏	測量器
国府本郷	加藤登思枝氏	衣類　他
国府本郷	加藤廣美氏	絵はがき　他
国府本郷	片岡登美子氏	日の丸（出兵時の寄書き）
国府本郷	露木孝雄氏	農具
国府新宿	杉山ヨネ氏	お手玉
月　京	長谷川義男氏	五月人形
生　沢	塚本哲夫氏	五月人形　他
二宮町	鈴木重行氏	蝶標本　他
二宮町	妻木徳一氏	蝶類展翅プレート
二宮町	西山敏夫氏	漁具　他
平塚市	安藤次郎氏	弥生土器片　他
平塚市	伊藤貞夫氏	ウキ　他
平塚市	杉崎公子氏	鑑札　他
横浜市	千野英子氏	ラジオ　他
横須賀市	山中盛作氏	ヘソ石　他

（寄託）

高　麗	渡辺幸五郎氏	木造神像
西小磯	小見滋夫氏	日誌　他

〈寄託期間：～H16. 3. 31〉

【表紙写真】

ボッコ

漁に着用した仕事着。何枚もの布を糸で刺して厚くしたもので、寒冷時や雨天時に着た。

【行事案内】

みなさんの参加をお待ちしています。詳しくは町広報をご覧になるか、館へ直接お問い合せください。

▼企画展

・開館15周年記念展『考古資料展』（開催中）

平成15年10月18日（土）～平成15年12月21日（日）

大磯町域では古くは明治期から考古学的調査がおこなわれ、多くの考古資料の蓄積がなされています。今回の展示では、縄文時代から近代に至る考古資料とともに、発掘等の調査時に写真などを紹介しています。

・（仮）『布　－着る、装う、楽しむ、繕う、繕う－』

平成16年2月21日（土）～4月4日（日）

5年間にわたる衣類整理のワークショップの成果を展示します。先人の方々は、どのように布を利用し、楽しんできたのか、さまざまな角度から布を見て行きます。

▼海の教室

・『漂着物を使ったキャンドルづくり』

貝やビーチグラスなどの漂着物を使って、クリスマスキャンドルをつくります。申し込み制となります。

日時／平成15年12月21日（日）、午前10時～12時

場所／郷土資料館研修室

定員／先着20名

申込／平成15年12月2日から電話にて受付

参加費／200円（材料費）

・「ビーチコーミング」

照ヶ崎と北浜海岸で漂着物を拾います。雨天決行。申し込みは不用です。当日現地へお集まりください。

日時／平成16年3月6日（日）、午前10時～11時30分

集合／照ヶ崎プール前に午前10時集合

Report －大磯町郷土資料館だより－ No.24

平成15年11月30日

編集発行　大磯町郷土資料館

〒255-0005 神奈川県大磯町西小磯446-1

TEL. 0463（61）4700

FAX. 0463（61）4660